

# 中央大学の経済人

## サミット宣言

### 採 択

# 「経済発展と母校の 発展に寄与」誓う

7月14日、赤坂プリンスホテル新館で、第1回「中央大学経済人サミット」が開かれた。このサミットは、本学の学員で経済界で活躍される方々の集いである。「南甲倶楽部」が中心となり、発起人代表の鈴木敏文氏（イトーヨーカドー社長）をはじめ、母校出身の経済人が「中央大学を絆として日本並びに国際経済の発展に貢献するとともに、母校の発展に寄与していく」という理念の下に開催したものである。

会議には南甲倶楽部の高橋秀義会長、鈴木康司学長の挨拶に続き、鈴木社長を議長として討議を開始、「サミット理念を掲げた」サミット宣言を満場一致で採択した。

この日、100人以上の学員が出席されたが、日ごろ見かけたりすることができないような企業のトップクラスの方たちが、中央大学のOBにこんないらっしやるとは思わなかったことだ。これは在学生の立場からみて心強いことであり、中央大学の歴史の深さを改めて感じた。



「サミット理念」を話す発起人の鈴木敏文社長

会議終了後、鈴木社長に「中大の先輩として、現在の中大生に対して何を望まれますか」と伺ったところ、同社長は「やはり勉強すること」と前置きされたあと、「私の」会社で採用試験をやるときに、学生時代に何をしていたかと問いかけると、社会を知るためであるとか、友だちとの付き合いだとか、そういった答えばかり返ってくる。もちろん、それはそれで大切なことではあるが、やはり学生である以上は基本的にな質問を身につけることが一番大切だ」とおっしゃった。そして就職難の時

代にあって、私たちの就職活動に向けてのアドバイスを伺ったところ、「しっかりと自己主張をすること」ということだった。

このお話を聞いて、いままでどれだけ自覚していたかというところ、いささか不安になった。これまで勉強というところ、単に与えられた課題をこなしたり、試験をクリアさえすればよいとしたか、考えていなかったように思える。大学の学問とは、もっと奥深いものであるにもかかわらず、表面的になぞっただけで、それであたかも完全であるかのように思っ、満足していた自分が恥ずかしいし、悔やまれる。

しかし、シツカリとした自分の骨になる学問を身につけることができれば、それは自分自身につながり、自ずから社会への道は開けてくるのではないだろうか。

そして、今回のサミットに参加されていた方たちは、それを身につけていたからこそ現在、社会の第一線で活躍されているのではないだろうか。出席者お一人お一人の姿が、私たちが在学生に対する大きなエールに感じた。（商学部・石畑 涼馬）